



第三十一代 近衛忠輝氏・甯子さまご夫妻、ご子息の忠大氏・桂子さまご夫妻——特別取材
近衛家の本分を伝え継ぐこと

千三百余年の歴史を経た近衛家には、奈良・平安時代から昭和までの、約十数万点に及ぶ古文書や古記録、古典籍が「陽明文庫」に伝えられてきました。近衛家の歴代当主たちは好学の士であり、文化人でもありました。そのため陽明文庫には国宝八件、重要文化財六〇件が現存、歴代当主はそれら膨大な品々を守り、受け継ぎ、現在に至るまで日本の文化を守り伝えてきたのです。

かつて近衛公爵邸があったともいう現・日立白クラブ。昔の趣残る建物内で右より、近衛忠輝氏・奥さまの甯子さま、左ページ右より、近衛忠大氏・奥さまの桂子さま。

撮影協力／日立白クラブ
 ヘア・メイク・着付け／すべて与儀美容室



ちなみにだといわれています。昭和十三年、近衛家第二十九代文庫によって設立された、近衛家の宝物庫である陽明文庫。その名称はこれらのごことによるものです。同家伝来の『御堂関白記』や『熊野懐紙』、『大手鑑』など、多くの史料が残されています。能筆家を輩出した家柄らしく、書跡資料も充実しています。

「今回、地元・京都で初めての陽明文庫特別展。特に愛らしい賀茂人形との出会いは、あまりの可愛らしさと精巧さに驚かれます。これだけ揃っているのは珍しく、多くのかたにご覧いただきたいですね」と語る甯子さまです。

まずは資料のデジタル化を 近衛忠大氏

「近衛家にとって僕は祖父以来55年ぶりに誕生した長男ですから、特別に責任があると思っています。陽明文庫の貴重な資料を僕の子どもや孫の時代、その先ずっと維持していくためにはどうすればいいかを常に考えて行動しているつもりです。父には父の、僕には僕の時代だからこそできる守り方があるのです。資料のデジタル化はもちろん、陽明文庫のコンテンツとしてのポテンシャルを現代に生かせればと考えています」

● テレビ番組や、イベントの制作現場を経て、2004年にクリエイティブ・エージェンシーGTパートナーズ設立。国際的でクリエイティブなプロジェクトにかかわっている。一方で披露会の一員として宮中歌会始などで和歌の読み手を務める。

子どもたちにも本物に触れさせたい 近衛桂子さま

「8年前に結婚し、3人の子どもに恵まれ、いつか全員で、夏休みにでも、陽明文庫に何えればと思っております。子どもたちには幼い頃からよいものを見せ、近衛家の一員としての自覚を持たせたいのです。近衛の家に嫁いでまいり、今までの人生にはない一流のもの、本物に触れさせていただき、貴重な体験をいたすことができ、本当に幸せです」

● 旧宮家・久邇家の久邇朝建氏のご息女。平成16(2004)年にご結婚。



**先祖伝来の宝、
陽明文庫を受け継ぐ**

藤原北家の嫡流である近衛家は、平安時代末期の関白藤原忠通の長男、基実を初代とします。邸宅が近衛大路に面していたため、基実の子、基通のときから近衛家を名乗りました。

その後、近衛家からは鷹司家が分かれ、九條家、二條家、一條家とともに五摂家となり筆頭となります。

また近衛家は別名「陽明家」とも称されましたが、これは近衛大路が御所の陽明門より東に発する大路であったことに

近衛家らしい生き方を次代へ 近衛家第31代 近衛忠輝氏

「千年の歴史を背負った近衛家の当主の中で、私は初めてのサラリーマンといわれています。26歳で亡き母の実家に養子に入ったものの、家風もしきたりもわからず、何をどう継いだらよいのか悩みました。

生まれた大名家と違って、公家の近衛家には家臣団がいるわけでもなく家訓めいたものもありませんでしたが、代々の先祖が残した膨大な日記や書などから時代を超えた近衛家の人間らしい生き様を読み取り、次代に引き継いでいきたいと思っています」

● 国際赤十字・赤新月社連盟 会長。日本赤十字社 社長。近衛家第31代当主。昭和40(1965)年に近衛文隆氏夫人の正子さまの養子。ご実兄は元首相細川護熙氏。財団法人 陽明文庫 理事長。

混乱の時代にも守り、残すこと 近衛甯子さま

「家を継ぐということは、歴代のご当主がそれぞれの時代にそれぞれのお立場で功績を残され、ご家来がお蔵を守り、その結果、千三百余年を経た今、当家に伝わる大切な品々とともに近衛家があるのだと思います。

残念ながら戦後、祖父と義父、2代のご当主を相次いで失いましたが、戦後の混乱の中、義母が20年もの長い間、祖母とともに近衛家を守ってくださったことを感謝しております」

● 三笠宮崇仁親王のご長女。昭和41(1966)年にご結婚。財団法人 陽明文庫 評議員。

